群馬県立盲学校　学校評価一覧表（令和５年度版）

（様式）

羅針盤				方策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	総合			
Ⅰ　幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1　保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	①「学校の様子がよく分かる」と保護者の80％以上が答えている。	教頭	○様々な機会を捉えて保護者と情報共有を密にする。 ○クラス通信、HP、一斉メール等を通じて、学校の教育活動について情報発信する。	A	A	A	・連絡帳や送迎時、個別面談等を活用して幼児児童生徒の情報共有を活発に行うことができた。 ・今年度は行事もコロナ前とほぼ同様に行うことができ、HPの情報発信も活発に行われた。	・情報発信がよくなされており、子どもたちの様子がよく伝わってくる。 ・点字通信を見て、世の中の点字に目が向くようになった。	・今後も情報発信に努めるとともに、保護者とのコミュニケーションを円滑に行い、情報共有を重ねていく。
		②地域や関係機関等に学校の様子を伝える活動を、年10回以上実施している。	教務主任	○文化祭などの学校行事や学校公開を通して、盲学校の様子や教育活動について地域・関係機関等に伝えられるようにする。また、ホームページも活用し、効果的に発信する。	A	A	A	・限定公開ではあったものの、文化祭を通して、関係機関等に本校の様子を伝えることができた。他の学校行事の様子は、ホームページで積極的に発信することができた。		・今後も個人情報の扱いに留意しながら、ホームページ等を活用しながら、積極的に本校の様子を発信するようにする。
		③県内の自治体や視覚障害関係機関（視覚障害福祉センターや点字図書館等）と連携を密にし、啓発活動を行っていると感じる職員が80％以上いる。	センター・啓発	○HPやメールなどを活用し情報を発信する。 ○まゆだまネットなどの場を利用し、関係機関と連携を密にする。	A		A	・予定していたまゆだまネットに参加し、情報交換を行ったり、HP等に寄せられた質問へ回答するなど啓発活動を行えた。また、会議を通じて各関係機関との情報交換を行えた。		・ホームページやYouTubeなどを用いての啓発活動にも力を入れていきたい。
	2　保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	④PTA総会、役員会、保護者交流会、部会、教育懇談会などのPTA行事に参加し、内容に満足している保護者が80％以上いる。	渉外部	○役員同士が協力し合えるよう、また、保護者が参加しやすいような活動を企画する。 ○保護者同士が情報を共有し、学部を超えた繋がりがもてるような活動を企画する。	A	A	A	・PTA活動に参加しやすいよう開催時期や内容の見直しを図った。仕事の都合であまり参加できないため、評価を下げて記入されている方もいる。今後も参加しやすいPTA活動を目指す。		・保護者が参加しやすい日程の調整を図り、PTA行事の精選を諮る。PTA役員の負担軽減のため、役員会の回数削減とともにスムーズな運営を図る。
		⑤地域の学校や関係機関と連携を図り、情報共有や交流などが十分に行われていると感じる保護者が80％以上いる。	センター・交流	○学校間交流や居住地校交流の推進・実施を図り、事前の情報交換を十分に行う。 ○感染防止に配慮しながら、地域の関係機関と情報交換・連携し、交流を推進する。	A	B	B	・小学部では、8割以上の児童が、学校間交流や居住地校交流を行った。中学部でも学部全体や個人での学校間交流が増えた。事前の情報交換もていねいに行われており、内容が充実してきた。	・高校では、探究の時間等で障害者についていろいろ調べて学んでいる生徒がたくさんいる。そういった高校生との交流が広がるとよい。地域の方々にも視覚障害者への理解を深めることができる。視覚障害についてそのような形で発信していくことも重要なのではないか。	・各学部で実施している交流活動について、継続して内容を深めるとともに、新たな交流の可能性を探っていく。。また、実施の様子をホームページに載せるなど、保護者全体に知らせるようにする。
Ⅱ　地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3　視覚障害や視覚認知発達に課題のある幼児児童生徒等の教育について、助言援助に努めていますか。	⑥地域の視覚障害支援センターとして教育相談やキャリア支援などを実施し、関係機関との情報共有をして連携・協力体制を取れているケースが80％以上ある。	センター目の相談	○来校相談後の報告など、相談者の関係機関との情報共有を行うことで、支援・協力体制を強化する。 ○相談者や関係機関に対して、活用しやすい情報提供を行う。	A		A	・9割のケースで、関係機関との情報共有を電話や書面で行い、連携をとることができた。 ・来校時や巡回訪問時の情報提供の際には、資料や実際の教材教具なども提示しながら、活用しやすい情報を提供するよう努めた。	・障害を持っている、困難があるということには誰でも気づくが、学び方がそれぞれ違うということが伝わることが大切。偏見、差別とは違った、彼らに対する敬意を持てるように継続して取り組んでもらいたい。	・実際の支援例、教材例などの資料を作成、整理し、わかりやすい情報提供を行えるようにする。
		⑦地域支援・啓発活動として、学校見学の受け入れ、研修会の実施、講師派遣等の要望に80％以上応じている。	センター・啓発	○資料の送付による情報提供や、本校職員を講師として派遣するなど、視覚障害者についての理解を深めるための活動や学習を進める。	A		A	・市内の小学校や児童センター等からの要望を受け、視覚障害者の理解を深める授業を行えた。		・校内での講習会の実施は今後も困難と予想されるため、講師派遣で要望に応えていきたい。
Ⅲ　幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4　個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑧幼児児童生徒一人一人の課題解決に向け取り組んでいると思う職員が80％以上いる。	生徒指導部部主事	○アンケートや面談を行い、得られた情報を分析し、課題の早期発見につなげる。	A	A	A	・日々の観察や定期的なアンケート結果分析を実施している。全職員へ生徒指導提要の改訂内容の研修を行い、個別課題において発達支持的生徒指導の重要性を周知した。		・生徒指導提要については引き続き職員研修等を通じて周知していくことで、生徒指導提要の内容について職員の理解定着を図る。
		⑨幼児児童生徒のいじめ対策への取組が、保護者の80％以上に認められている。	生徒指導部	○いじめの早期発見に向け、各学期に1回のアンケート調査を実施する。 ○PTA総会において保護者に対し、本校のいじめ対策への取組についての説明をし、その内容の共有を図る。	A	A	A	・定例の学期に1回のアンケートに加え、冬季休業前には全児童生徒との面談を実施した。 ・PTA総会で本校のいじめ対策への取組について説明し、アンケート時には保護者へも同様に配付し、本校の取組を知っていただいている。	・少人数の学校で、担任との関係が深く話しやすい良さはある。しかし、深い関係だからこそその関係を崩したくないために言いにくくなることもある。いじめのアンケートについては、担任以外が行く機会があってもよいのではないかと思う。	・アンケートの質問がわかりにくいという意見があったので、生徒指導部内で見直しをして分かりやすい表現に改める。
	5　指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑩個々のニーズに応じた教材や指導の工夫に努めていると思う保護者・職員が80％以上いる。	教科研究グループ	○丁寧な観察を行い、個々の特性を伸ばせるように指導方法の改善を図る。 ○ ICT等を活用し、個別最適な学び、協働的な学びを図る。	A	A	A	・ICT活用のための個別相談会を実施し、授業での効果的な活用を促した。 ・各教科で既存の教材教具を管理、周知し、授業で活用できるよう目指す。		・各教科で既存の教材教具を管理、周知し、授業で活用できるよう目指す。
		⑪一人一人の実態や指導の工夫について情報交換を行い、系統的な指導に努めていると思う職員が80％以上いる。	教科研究グループ	○「指導の工夫事例集」の動画づくりを行い、今まで積み重ねた工夫事例を共有・活用できるようにする。 ○群馬大学等外部専門機関と連携し、幼児児童生徒への指導力の向上を目指す。	A		A	・指導の工夫事例の動画作り（2年計画）を行い、各教科ごとに過去の工夫事例の共有、整理を行った。 ・群馬大学等外部専門家と連携してケース会議を行い、指導や支援の改善を行うことができた。		・指導の工夫事例を整理、共有しながら、工夫事例の動画を完成させる。
Ⅳ視覚障害教育の専門性がある特別支援学校を目指す取り組みが行われていますか。	6　専門性の継承と深化に向けた研修や発信するための取組が行われていますか。	⑫専門性・指導力を高めるための研修が組織的・計画的に行われていると思う職員が80%以上いる	研修部・自立活動研究グループ	○幼児児童生徒の実態、指導面での課題に合わせて、点字、歩行、弱視教育、重複障害教育、ICT活用に関する校内研修やワークショップを実施する。	A		A	・小規模学習会を定期的に実施し、各教員がニーズに合わせて参加できるようにした。 ・夏季には、外部講師を招いて講演会を実施し、弱視児童生徒への支援について研修を行った。		・各教職員のニーズを把握し、それに合わせた研修会や小規模学習会を企画する。
	7　専門性を高めるために、校務分掌や委員会などが組織体として機能をしていますか。	⑬ケース会議、授業研究、各学部及び寄宿舎における研修が、視覚障害研究・研修部が持つ専門性と連動して行われ、効果を上げていると感じる職員が80％以上いる。	教頭 研修部・自立活動研究グループ	○視覚障害研究・研修部の専門性を各学部及び寄宿舎における実際の指導・支援に生かせるように、情報共有を効果的に行う。	A		A	・各学部、寄宿舎のニーズに合わせた内容の研修を視覚障害研究・研修部と連携して行うことができた。		・各学部や寄宿舎等で課題と感じていることについての研修会を企画できるよう、学部主事や寄宿舎担当者と連携をとる。
		⑭学校評価による改善の取組が校務分掌と連携して進められていると感じる職員が80％以上いる。	教頭	○評価結果を分析し、担当の分掌で改善策を検討し、具体的な改善に繋げる。	A		A	・結果を職員全体で共有し、担当分掌および各学部で課題を分析して、幼児児童生徒の個別の課題解決に向けて組織的な取組を進めるようにした。		・学校評価の取組を、職員一人一人が自分事としてとらえ、改善につなげていけるよう各分掌で検討していく。
		⑮幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた教育計画を立てる上で、校内教育支援委員会が機能していると感じる職員が80％以上いる。	教育支援委員会	○校内教育支援委員会で、学部を越えた全体的・長期的な視点で教育計画を考え、指導・支援の適切な方向性を見出す。また、必要に応じて臨時校内教育支援委員会を開催する。	A	A	A	・臨時校内教育支援委員会はなかったが、年度初めと終わりの教育支援委員会で、学部を超えて新入生などの情報を共有することができた。		・年度当初の実態把握や次年度に向けての課題の共有を通して、幼児児童生徒への適切な指導や支援につなげられるようにする。
	8　障害に配慮した教育環境の整備が行われていますか。	⑯視覚障害などに配慮して校内の施設・設備の整備が行われていると感じる保護者・職員が80％以上いる。	管理部事務部	○保護クッションや点字ブロック・手すりなどの設備の点検を行い、必要に応じて、修繕をする。教室から外へ落ちないように窓際のレイアウトに留意するように伝える。	A	A	A	・速やかに、修繕を行うことができた。 ・毎月の安全点検強に落下に関する項目を入れた。		・保護者アンケートの項目に、施設設備に関する項目を入れたので、改善に生かしていく。 ・児童生徒からも意見を聞く機会を増やしていく。

Ⅴ　健康や安全の確保に努めていますか。	9　健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑰幼児児童生徒の健康状態や安全への対応が適切に行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	健康 指導部	○状況に応じて必要な感染症対策、熱中症対策が講じられるよう、判断したり実践したりする力を養う。 ○健康診断事後指導を徹底する。 ○学部・保護者・寄宿舎と連携して健康状態を把握し、適切に対応する。 ○学校給食を通して、食事の大切さや望ましい食習慣を身に付けさせ、健康教育を推進する。	A	A	A	・新型コロナウイルス感染症5類移行後も、適切な換気や給食時の机や配膳台の消毒、体調不良時のマスク着用の励行などの感染症対策を行った。 ・治療勧告書を配布し、受診を勧めた。 ・健康観察の記録表を活用し健康状態の把握に努めるとともに、体調不良時には保健室で休養させる、保護者に連絡するなどの対応をとった。 ・便りや放送で食と健康についての啓発を行った。		・引き続き、感染症対策に適切に取り組む。熱中症予防についても呼びかけるなどして対策を講じていく。 ・健康観察の記録表の活用や、健康診断の事後指導、学校給食を通して、自分の体調や健康を意識して生活しようとする態度の育成を図る。 ・今後も、学部、保護者、寄宿舎と連携を図り、健康状態を把握するとともに、体調の変化に適切に対応できるようにする。
	10　危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑱緊急時の対応や施設・設備の安全に備えた訓練や点検が行われていると感じる職員が80%以上いる。	管理部 寄宿舎	○適切な行動ができるように避難訓練を実施する。 ○備蓄品のデータ管理を随時行う。 ○毎月の安全点検を行う。 ○安全への意識を継続させる。	A	A	A	・水害避難訓練、震災避難訓練、火災避難訓練を実施した。水害避難訓練では、個別に対応方法を確認した。火災避難訓練では、管理職不在時を想定して取り組んだ。毎月の安全点検を適切に実施し、適宜注意喚起を行った。	・不審者訓練の実施、防犯に対しても一覧表に記載してほしい。人災の影響度は非常に大きい。	・不審者対応訓練は、実施している。記載漏れがないようにする。
Ⅵ　将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	11　キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑲キャリア教育の視点に立って将来を見据えた系統的な指導が行なわれていると感じる職員が80%以上いる。	進路 指導部	○「キャリア教育全体計画」を教員、保護者に周知して共通理解を図る。 ○キャリア教育の視点に立った具体的な指導・支援を授業に反映する。	A		A	・年度初めの職員会議において全体への周知を図った。 ・各学部においてキャリア教育の視点に沿った取り組みが計画実施された。	・学校のキャリア教育、進路指導、進路状況についてより具体的な内容を、保護者や関係者以外の外部の人に知ってもらう方がよいと思われる。視覚に障害を持つ子どもの保護者の方が入学先の選択肢の一つとして県立盲学校を検討するとき、盲学校卒業後の進路状況、従事している業務についての情報は大変参考になると思われる。HPでも進路状況は概ねうかがい知ることができるが、卒業生の、社会における具体的な活躍の内容が分かるとよいと思われる。	・卒業生の進路状況等の情報発信について、その内容等や発信方法を検討する。
		⑳あんま・マッサージ・指圧師、はり師、きゅう師国家試験に全員合格する。	専攻科	○使用文字がない生徒の受験に備え、音声機器操作や点字指導に取り組む。 ○定期試験や模擬試験は実際に即した内容や形態で行い、実力養成に努める。	A	B	B	・使用文字がない当該生徒の受験方法を「白紙に墨字で解答・デイジーCD使用」に変更した。 ・各種試験の実施と評価・事後指導等を適切に行い、目標達成の見通しがついた。		・国家試験全員合格をめざす。 ・個々の見え方に合わせた授業を展開する。 ・生徒の視覚障害を補う学習・生活スキルを獲得しようとする意識向上を目指す。
	12　保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	㉑発達段階や実態に応じて、一人一人の将来へ向けての指導（あいさつや清掃等の指導も含む）が行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	進路 指導部	○発達段階や実態に応じた進路行事を検討する。 ○各関係機関との連携を深め、一人一人の実態に合った進路指導を実現する。 ○進路講話、「進路だより」等で進路情報の提供を積極的に行う。	A	A	A	・各学部において進路関係行事を実施できた。 ・卒業生進路について希望に沿う提案を行った。 ・進路だよりの発行、事業者との対話場面を設定できた。		・進路だより等の内容について検討し発行を継続する。 ・児童生徒の居住地域や進路希望を考慮した関係機関との連携を進める。
Ⅶ　将来の自立に結びつく寄宿舎指導を行っていますか。	13　身辺自立・社会自立に向けての指導を個に応じて行っていますか。	㉒身辺自立や社会自立に向けた指導が、一人一人に応じて個別に行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	寄宿舎 自立研修 グループ	○生活自立、余暇の充実に向け、生活体験や社会体験を児童生徒の実態に合わせて実施する。 ○寄宿舎便り等を通じて、寄宿舎生活における具体的な取組状況を発信する。	A	A	A	・児童生徒の実態に合わせて、調子実習や買い物学習、公共交通機関を利用した体験等を、適宜実施することができた。 ・寄宿舎便りや各棟のお便りの配布、各種行事のホームページへの掲載をした。	・地域住民に対して紹介できるので、ホームページ等の寄宿舎の情報発信を今後も継続して行ってほしい。	・児童生徒の実態に応じて取り組む内容を、段階を踏んでステップアップしていけるようにする。 ・今後も各棟のお便り、各種行事のホームページ掲載を継続して取り組んでいく。